

## 第3章 現行計画の検証

これまで中央市教育委員会では第1次教育振興基本計画に基づき、「まごころ」を教育の基本に掲げ、生きる力をはぐくむ教育（生）、いのちを大切にする教育（命）、信頼しあう教育（信）を推進してきました。

また、第2次総合計画策定の際に実施した市民アンケートによると、「幼児教育・学校教育の充実」は市民ニーズとして重要度が高く、その内容として「道徳心・倫理観を重んじた教育の推進」が求められているところです。

第2次教育振興基本計画を策定するにあたり、第1次計画についてここで振り返ります。

### 1. 教育の基本「まごころ」

#### (1) 「まごころ」にかかるこれまでの施策

##### ○中央市の教育の基本(平成18年12月4日制定)

「まごころ」

- ・生きる力をはぐくむ教育(生)
- ・命を大切にする教育(命)
- ・信頼しあう教育(信)

##### ○中央市教育の日(まごころの日)(平成21年1月6日制定)

<趣旨>

私たちは、人格の完成をめざし、心身共に健康な市民の育成を期し、「中央市の教育の基本」として「まごころ」を掲げ、生きる力をはぐくむ教育、命を大切にする教育、信頼しあう教育を推進しています。

中央市の「中」には「こころ」、「央」には「求める」という意味もあります。実り豊かな市をつくるためには、実り豊かな教育環境が必要です。

市民一人ひとりが「中央市の教育の基本」に思いをいたし、自分をふりかえり、まごころをはぐくみ、豊かな教育環境をつくる契機とするため、中央市が誕生した2月20日を、「中央市教育の日(まごころの日)」として、ここに制定します。

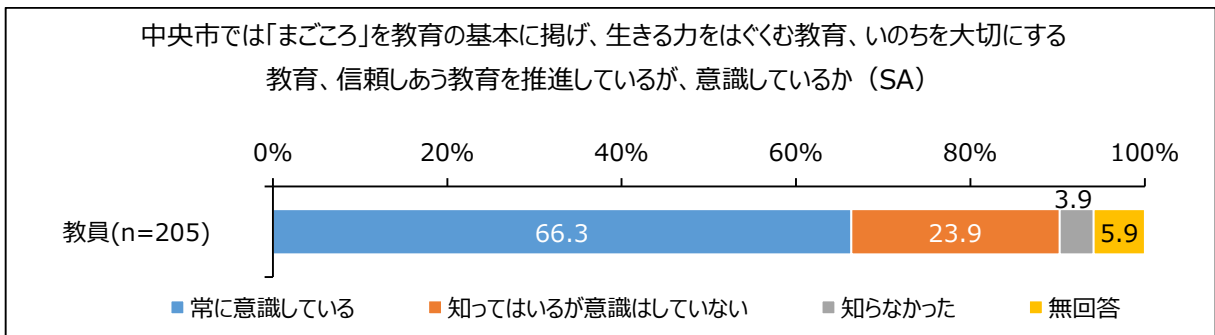
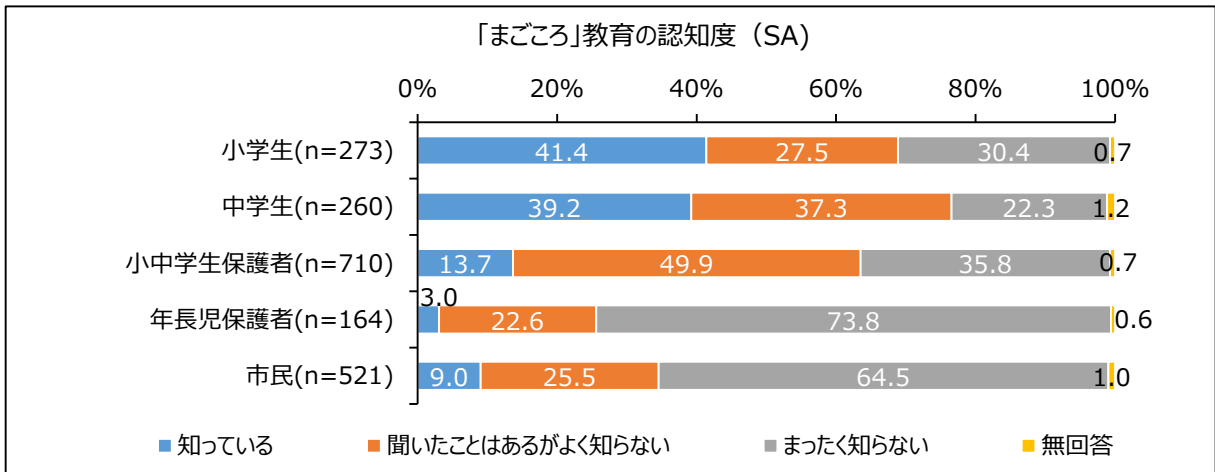
##### ○第2次中央市長期総合計画(抜粋)(平成30年3月策定)

本市の教育振興の在り方を定めた、中央市教育振興基本計画による「まごころ」を基本に、生きる力をはぐくむ教育・命を大切にする教育・信頼しあう教育を推進し、中央市教育の日(まごころの日)を広報紙や市ホームページ等を活用して市民に周知し、理解促進に努めます。

## (2) 教育の基本「まごころ」の認知度及び実践度

小中学生の約6割が「聞いたことはあるがよく知らない」、「まったく知らない」と回答しており、その他の対象者においても「知っている」は2割以下になっていることから、「まごころ」教育への理解が進んでいないことがうかがえます。

また、「まごころ」教育推進の中心的な役割を担う市内小中学校の教員においても、「知っているが意識はしていない」、「知らなかった」と回答した教員が約3割おり、「まごころ」教育の推進が十分に行われていない状況にあります。



出典: 中央市の教育に関するアンケート調査(令和元年9月)

## 2. 第1次教育振興基本計画の振り返り（総括）

### ○概要

人を動かすものは人のまごころであり、まごころを中心にした豊かな心の育成が大切であるため、市では「まごころ」を教育の基本に掲げて教育の振興に取り組みました。家庭や地域と連携した道徳教育等により、正直で真面目な生活態度、生命を大切にする心や思いやり、公德心、規範意識等をはぐくむとともに、読書活動、自然や文化を活用した体験活動、文化活動等を通じて、豊かな心の育成に努めました。

### ○主な取組実績

- ・中央市の教育の基本「まごころ」を全教室に掲示し、校長を中心に全教育活動を通してまごころをはぐくむ教育を推進し、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな教育を行いました。
- ・いじめ・不登校をなくすため、一人ひとりに居場所のある魅力的な学校・学級づくりに取り組みました。また、学校全体で共通認識のもといじめ・不登校対策に組織的に取り組みました。
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用し、相談体制の充実を図りました。
- ・自然体験や社会体験、社会奉仕活動、地域の人々との交流活動等、体験を重視した教育活動を行い、豊かな心の育成に努めました。
- ・児童生徒を対象とした親子農園、キッズアカデミー、陶芸教室などを実施し、こころを育む体験活動を行いました。
- ・社会科副読本「わたしたちのまち中央市」を作成し、学習に活用し、郷土理解を深めました。
- ・「学力向上委員会」を開催し、全国学力学習状況調査結果の分析と各学校の取組を情報共有し、学力向上に組織的に取り組みました。
- ・「やまなしスタンダード」の視点に基づいた授業改善を行い、児童生徒の学習に対する達成感や目的意識の醸成を図りました。
- ・小・中学校の系統的な学習を進めるため、小・中学校間の連携を推進しました。
- ・中学海外語学研修事業や学校へALT（外国語指導助手）を配置し、生きた英語に触れる機会を創出し、グローバル人材育成の基礎をつくりました。
- ・英語検定料の受験に要する費用の一部を助成し、児童生徒の英語力及び学習意欲の向上を図りました。
- ・新体力テストの結果をもとに「健康・体力づくり一校一実践運動」「目指せ！やまなしチャンピオン事業」に取り組み、子どもの運動機会の確保と体力の向上に努めました。
- ・赤ちゃんだっこ体験、薬物・喫煙に関する授業を行い、命や健康の大切さを学ぶ機会を設けました。
- ・中央市学校給食センターによる給食の提供を行い、アレルギーをもつ子にアレルギー対応給食が提供できるようになりました。
- ・社会施設、社会体育施設の利用を促進し、より多くの市民が日常的にスポーツに親しめるような取組を行いました。
- ・市民が地域の歴史・文化について理解を深め、文化財への愛護精神を高めるために、「ふるさとウォーキング」や学習講座を開催しました。また広報誌や市のホームページなどを活用し情報発信を行いました。

- 子どもの発達段階に応じて7か月健診時に本を贈るブックスタート事業や小学校入学時及び中学校卒業時に本を贈るブックプレゼント事業、ボランティアサークルと協力して読み聞かせ会を実施するなど、長期的な視点で読書活動を推進しました。
- 日本語が分からない児童生徒及び保護者を支援するために、市内小中学校にポルトガル語の通訳を配置し、学習面や生活面の指導強化を図りました。
- 発達障がいをもつ子どもの就学を支援するために、教育委員会に教育指導監を配置し、保護者からの相談体制の充実と子どもの特性に応じた適切な就学につなげました。
- 経済的に余裕のない世帯に就学に必要な経費を支給し、安心して教育がうけられるよう経済的な支援を行いました。
- 幼児教育を推進するために、私立幼稚園就園奨励費を支給しました。
- 小中学校施設長寿命化計画や学校からの要望に基づき、学校施設の改修や修繕を実施し、教育環境の整備を図りました。
- 市独自に採用した教員（市単教員）を各学校に配置し、児童生徒への指導体制の充実を図り、学力の向上に向けた取組を行いました。

#### ○今後の課題

価値観の多様化、少子化、核家族化、グローバル化等により、人々のつながりや共同体意識が希薄化し、豊かな心や社会性を身につけることが一層難しくなっているため、引き続き「まごころ」を基本に、未来を担う子どもたちの健全育成に取り組む必要があります。

また、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、学校と保護者、地域住民等が連携・協働して課題解決に取り組むために「地域とともにある学校づくり」を進める必要があります。

「まごころ」は教育現場だけでなく市全体で推進していく必要があることから、引き続き、中央市教育の日（まごころの日）の周知などを通じ、すべての市民に市の教育の考え方を浸透させていく必要があります。